

軍事・歴史・政治・経済研究紙

MONTHLY DAITOH-NEWS

本紙の年間購読は本体 3,000 円 + 税です。

グローバル化と国際テロリズム

テロ時代の開幕

世界は混沌とし始めている。誰も将来の見通しについて不安を抱いている。現在のアメリカ株価の高騰を受けて、景気が良くなりつつあると感じるのは一時の幻想に過ぎない。近い将来、景気は下降線を辿るのは間違いない。やがて不況に喘ぐ雪の泥濘の時代がやって来るであろう。

世界各地で頻発しているテロリズムは、今後も収まる事がないであろう。世界の警察官、世界の保安官を自称するアメリカは、既に歴史的に見れば衰退した国家であると言つ事が分かる。地球規模で世界を見た場合、単に北半球のみで物事を考えてはいけない。世界は二十四時間、常に何処かと運動されている事を忘れては行けないのである。これを忘れた時、突然不幸を襲ってくる。

二十一世紀は新たな、これまで想像を絶するような、同時多発テロ事件から始まった。人、モノ、金、情報が地球規模で行き交うようになった時代、文明と物質主義に偏ってしまつた為、人心は精神の拠り所を見失い、物欲主義に走るようになった。そして、物質文明の恩恵は、交通手段の発達により、人々は簡単にどこへでも自由に行けるようになったことだ。

その結果として、民族や人種と云った、人間の行き来も自由になり、その背景としてテロリストの移動も簡単となり、テロが世界中で起きることになる。

二〇〇一年九月十一日には、アラブ系実行犯によると思われるハイジャックした民間航空機で、ニューヨーク・世界貿易センタービルへ突入するテロが起きた。

一方、人、モノの移動により、伝染病の流行が早くも世界規模的に拡大する現象が起きた。人類の体験は、一九九〇年代後半からの IT 革命により、地球規模で情報が瞬時に発受信されるようになったことだ。

米英軍に、殆ど壊滅させられて弱体化していると聞いているが、その精神に共鳴した原理主義者が、新たに総勢力を組織して、どんどんテロ組織が増えているというのが実情である。

先の日ロンドン同時爆破テロなんかは、アルカイダの流れを汲んだ組織だと言われている。更にテロのターゲットは、経済がうまくいっているアメリカに向けられてきている事だ。そして倫敦での同時多発テロの、次の日に、各地の航空会社が数十万人規模の大ストライキを発表し、これを実行した事だ。

今日のテロ旋風を巻き起こしているのは、その根源に、イスラム原理主義ならぬ、金銭原理主義が横たわっている。資本主義を標榜する自由主義陣営は、圧倒的に経営者有利の国々である。

更にこうした国々は増す濃きコントロールによって、大衆を煽動し、あるいは「進歩的」と云われる文化人や有識者を動員して世論操作を遣る事に長けた特殊技術を持っている。大衆が支持する、かいた、あるいはいかになかったという結果によるものである。

こうした洗脳に力を入れ、大衆を洗脳を画策し、仕掛人に煽動指令を下しているのが、国際ユダヤ金融資本である。

しかしながら、多くの日本人は、国際ユダヤ金融資本の実態を知る者は殆ど居ないと言つてよからう。

そしてミニタリー・バランスの拮抗度を推測し、それに応じて対処するのが国際ユダヤ金融資本の参加で企業活動を展開しているアメリカ・軍産複合体である。

その連動している証拠が、アルカイダは、ソ連がアフガンへ侵攻した時に武器を持って戦つたムジャヒディン(抵抗組織で、先進工業国に対するバルチザンの一種)の一つが、現在モロシヤ連邦の武器提供者によってその恩恵を受けていると云う事だ。

この構造はどうなっているかと言えば、アメリカから設立から促されて多大な援助を受け、そこで武器が精算され動員に武器提供に伴い、軍事訓練とセットになっている事だ。

アルカイダの場合、その指導者は、ビン・ラーディンである。そして「タリバン」は、神学生の意味を持つ。イスラム圏内において、神学生は聖戦を指揮する指導者の意味を持っているのである。

ソ連撤退後に、カブールを占拠した北部の部族同盟が、乱暴狼藉を働いたのを見た神学生が、正義を行うため、武器を取って立ち上がった。これが「タリバン」の興りである。

当初、治安を回復し、正義を行うタリバンに民衆は支持したが、極端なイスラム原理主義を実践したので、国際的に孤立していったのが「タリバン」だった。

タリバンの指導者オマル師は、ビン・ラーディンを尊敬し、政権掌握後にアルカイダを招聘した。ビン・ラーディンはアフガン戦争が終結するまで、かの地で辣腕を振るつたのである。

例えば、パニックの起り易い所は何処か。人が集まっている場所だ。お祭りの最中に自爆テロを行つたり、バスの乗客と共に吹き飛ばすという事が、テロ実行犯の最も望む事である。(独眼竜)

戦争と宗教の連動

(その四十九) 米国イオンド大学教授 曾川和翁

宗教 (religion) の起りは神または何らかの超越的絶対者、あるいは卑俗なものから分離され、禁忌された神聖なものに関する信仰および行事に関するものを指す。また、それらの連関の体系を宗教と言つ。

帰依者は精神的共同社会(教団)を営むことが求められる。アニミズム・自然崇拜・トーテムズムなどの原始宗教、特定の民族が信仰する民族宗教、世界的宗教すなわち仏教・キリスト教・イスラム教など、多種多様であるが、多くは教祖・経典・教義・典札などを何らかの形で保たれ、宗教教団の長はカリスマ的な指導力によって信者を率いる。そして下位に、宗教家と言つ聖職者を配し、宗教に深く通じた人、または、神父や牧師や僧侶のように布教に従事する人を配し、信者獲得に当る。そして自分の帰属する宗教のみが正しく



こうした意識が表面化してくるのは、中世期に於てであり、既に宗教と戦争は連動化される関係にあった。中世期に於

められないと言つ意識が強くなり、これが領土問題や商業的利益に大きく絡んでくるのである。

て、他は全て間違いだと言つ選民的な意識に捕われる事になる。

が、この争いはおおよそ二百年間、七回に亘つて行われた十字軍の遠征からも明らかになる。

宗教と言つものは、信仰が深くなければなるほど、真剣になり、自分の信じている宗教以外は全て抹殺しなければならぬと言つ考え方に捕われてしまふ。

歴史を工学的に科学する

〒 802-0985 北九州市小倉南区志井 6 丁目 11-13 (尚道館ビル 2F) 九州科学技術研究所 093(962)7802 FAX093(961)8224 Eメール: science@daitouryu.com

九州科学技術研究所 Kyushu technology Institute logo and name.

九州科学技術研究所 URL http://www3.ocn.ne.jp/saigouha/ 大東流霊的食養道 HP www.daitouryu.com/syokuyou/ 癒しの杜の会 HP www.daitouryu.com/iyashi/